2025年度　障害者雇用促進セミナー開催
～企業より事例紹介・意見交換会～

２月17日、滋賀県立北大津養護学校において「2025年度障害者雇用促進セミナー」が開催された。

本セミナーは、企業担当者や支援機関、教育関係者など35名の参加者を迎え、障害者との関わりを積極的に行っている企業より「事例紹介」、障害者雇用に関する課題や悩みを共有する「意見交流会」を実施した。

第１部「北大津養護学校の進路指導について」

滋賀県立北大津養護学校より「北大津養護学校の進路指導について」と題し、講演していただき、進路指導の基本方針や流れ､学校として大事にしていることを説明された。

進路指導として､‘行き先指導ではなく、生き方指導’や‘自己理解から自己決定’を大事にしつつ、現場実習を通して、仕事のイメージを持たせ、進路先を決定していく。また、しがしごと検定の参加やキャリア教育推進事業、企業からの講師を招く授業などにも取組んでいる。

第２部「学校見学」

学習の日常風景を現認し、障害のある生徒への理解を深めるために、見学会を実施した。卒業式シーズンであるため、高等部３年生は、卒業式練習、１・２年生は、卒業する先輩へのメッセージカード作りに励んでいた。

第３部「障がい者雇用
～採用と定着を成功させる仕組みづくり～」

「企業より事例紹介」として、新旭電子工業株式会社より「障がい者雇用～採用と定着を成功させる仕組みづくり～」と題し、講演していただいた。失敗事例から学び、障害者本人の能力や特性をしっかりと見極めた上で、職場実習や職場配置を行い、育成の仕組みを通じて、障害者の採用と定着を成功させた。身体重度１名、身体軽度１名、知的重度１名、知的軽度８名の方が働いている。なかには、製造現場での交代勤務の方もいる。それぞれ障害特性に応じた仕事をされている。健常者と障害者の差別をしないことなど、企業全体が障害のある方を理解できているからこそ、法定雇用率を超える雇用率4.7%を実現することができた。

第４部「グループワーク（意見交換・悩み共有）」

事前に、障害者雇用に対する課題について、アンケートを行い、同じ課題をもつ企業でグループ編成し、多面的な意見交換を行った後、各チームで話し合った内容を発表していただいた。評価を給与にどのように反映させるか、モチベーションアップにつながる方法など、たくさんの発表が聞けた。

第５部「支援の案内」

湖西地域働き・暮らし応援センターより「支援の案内」と題し、働き・暮らし応援センターの概要について説明された。

セミナー参加者からのアンケートでは、参加者の多くが「十分満足」または「満足」と回答しており、セミナー全体の満足度が非常に高かったことが伺えた。また、コメントからも､「実例をもとにした発表が非常に有意義であった」「事例紹介を行った企業の取り組みは、素晴らしく、学びが多かった」「実際の作業風景や企業の声が聞けたことで、障害者雇用に対する理解が深まった」といった声が寄せられた。

今後の課題としては、2026年７月より法定雇用率が2.7%となり、障害者雇用について、様々な課題に直面されると推察される。今回の障害者雇用促進セミナーを通じて、多くの企業が障害者雇用の重要性を再認識し、地域社会における役割を深める契機となった。今後も企業・教育機関・行政が連携し、障害者が幅広く活躍できる持続可能な社会の実現を目指していくことが求められる。